

# シンフォニー

 ~ 法人設立 **40** 周年記念号 ~



横浜市中央浩生館から見た景色



よこはまりパークサイド泉の正面玄関

社会福祉法人 横浜市社会事業協会  
シンフォニー第25号 法人設立40周年記念号

目次

1	ご挨拶（佐々木理事長）
2	法人のルーツ（辻川次長）
6	法人の歴史（年表）
8	横浜市中心中央浩生館 （国分係長インタビュー）
10	よこはまりバーサイド泉 （朝倉事務長、中村施設長インタビュー）
16	令和2年度事業報告・決算書
20	令和3年度事業計画・資金収支予算書



## ご挨拶

社会福祉法人 横浜市社会事業協会  
理事長 佐々木寛志

令和3年3月、私たちの法人は設立40周年を迎えました。ご支援・ご協力をいただいたご利用者・ご家族、行政、福祉・医療機関、近隣・地域の皆さま他大勢の方々に心から感謝申し上げます。

さて、この折に法人の最近の経営状況を確認してみましょう。いわば健康診断です。

法人の経営活動の成果を表す経常増減差額は、2016年度及び17年度はマイナス、赤字でした。17年4月に開設した横浜市多機能型拠点の整備・運営経費の支出が大きな負担となったためです。

この3年度（2018～20年度）は改善。「事業活動収支」では、サービス活動増減差額も経常増減差額もプラスを続け、事業は順調に回っています。「資金収支」については、多機能型拠点の長期借入金償還がある中で、当期資金収支はプラスで推移しています。法人として每期黒字を積み重ね、純資産の増加によって純資産比率も向上し、健全な財務状況にあると言えるでしょう。事業の継続性・安定性が確保されています。

とはいえ油断は禁物。災難はいつの場合も前触れなしにやってきます。常に支出相応の手許資金などの用意が必要です。「10年プラン」に掲げた主要施設の再整備などの目標を実現するうえでも、いっそうの資金余力が求められます。何事も希望的観測にとらわれることなく、日ごろの備えを固めたいと思います。

この間の財務上の実績は、各事業所で所長・職員が力を合わせ、時に、あるいはしばしば発生する困った事態に対処しながら、ご利用者が必要とするサービスをしっかりと提供できている結果です。所長・職員一人ひとりの日々の仕事への取り組みとチームワーク・協働の成果です。各人・各事業所の努力を改めて讃えたいと思います。

私たちの仕事は、質の良いサービスを安定的に提供することです。そのために最も大切な条件は、職員各自がご利用者の身になり、働き甲斐をもって一日一日の勤めに携わることでしょう。引き続き、職員の心身の健康づくりやスキルアップ支援、働きやすい職場づくりに努めます。

40年の蓄積を基に、新たな挑戦もしつつ、これからも良質なサービスと健全な経営を心掛け、ご利用者・ご家族はもとより、地域や行政等関係機関の方々の信頼にお応えしていきます。

皆さまの変わらぬご支援とご協力をお願いします。

### 当法人の前史について

当法人の設立は、昭和 56 年 3 月ですので、令和 3 年でちょうど設立 40 周年を迎えます。しかし、この「40 周年」とは、当法人が社会福祉法人となってから 40 周年ということで、実はそれ以前にも歴史があります。当法人は昭和 21 年「横浜市厚生援護会」という名称で設立され、その後 2 回の改称を経て、昭和 26 年に現在の名称「横浜市社会事業協会」となりました。そして昭和 31 年に財団法人、昭和 56 年に社会福祉法人となり現在に至ります。つまり、当法人は前史から通算すると「75 周年」ということとなります。

このように歴史のある当法人ですが、大変残念なことに社会福祉法人化以前のことを確認できる資料は法人にはほぼ残されておらず、唯一「よこはまりバーサイドとつかホーム(現リバーサイド泉)5 周年記念誌」にわずかに沿革として記載があります。そこには、当法人がかつて運営していた事業の種類、名称や実施場所が書かれています。今年のシンフォニーでは、その内容と参考文献を手掛かりに、編集担当 3 人が足跡を巡ってみました。



よこはまりバーサイドとつかホーム  
(現リバーサイド泉)開設 5 周年記念誌

### 「簡易ホステル」

(昭和 23 年～昭和 44 年)

5 周年記念誌の沿革によれば、簡易ホステルは昭和 23 年に横浜市より買収して運営を開始し、昭和 44 年に事業停止するまで、運営を行っていたとのこと。場所は、「西区高島通、横浜駅前」とのこと。昭和 45 年に「借地権と建物一部を首都道路公団に売却」、昭和 49 年に「用地(借地権)及び建物 横浜駅東口開発公社に売却」との記載があります。

西区高島通は、現在の西区高島 1 丁目、2 丁目にあたりますが、「横浜駅前」という記載と、売却先が首都道路公団と横浜駅東口開発公社であることから類推すると、西区高島 2 丁目、現在の横浜ポルタのあたりではないかと思われます。昭和 23 年の横浜駅東口には、横浜新興倶楽部という施設がありました。横浜新興倶楽部は、昭和 7 年に開設された、低所得給料生活者のアパートのほか社会事業団体への貸室などを行う施設でしたが、戦後は「新興倶楽部鍛錬場には、終戦後多くの無宿者、失業者が宿泊するところだったが(後略)」(社会福祉法人神奈川県匡済会, 1994, P47)という状況でした。「簡易ホステル」がその中でどのような役割を果たしていたのか明確なことはわかりませんが、その名称から住居のない方等に簡易的な宿所を提供する施設であったと想像します。そして、次第に役割を終えつつあるところで、横浜駅東口の再開発に伴い、建物と借地権を手放したということのようです。

編集担当 3 人で現地を散策してみました。当法人の事業所がこの場所にあったという痕跡はもちろんありません。煌びやかな横浜駅前眺めながら、「この一等地にいまだに地権があれば…」と、少々残念にも思ったところでした。

「無料宿泊施設 水上宿舎」  
(昭和 24 年～昭和 29 年)

もうひとつ 5 周年記念誌の沿革によれば、昭和 24 年に受託経営を開始し、昭和 29 年に事業停止するまで運営を行っていた「鉄ハシケ 4 隻」との記載があります。

場所は、「中区尾上町柳橋河岸」とあります。柳橋について調べてみると、かつて大岡川と中村川を結ぶ運河・派大岡川(大半の区間は首都高速横羽線の半地下区間)のもっとも大岡川寄りの橋でした。この付近に 4 隻の鉄ハシケ(つまり船)を浮かべて、その船が宿舎であったものと思われます。

平成 10 年頃、編集担当の辻川は、中村川に浮かんでいる水上宿舎の船を見たことがあります。私たち編集担当は、その船のあった場所に行ってみましたが、水上宿舎はもちろんのこと、係留されている船も一艘もありませんでした。また、かつての柳橋があったと思われる場所にも行ってみましたが、柳橋の痕跡も見つけることができませんでした。



桜川橋から大岡川上流に向かって

「宿泊施設 横浜中央厚生宿舎」  
(昭和 24 年～昭和 38 年)

「宿泊施設 横浜中央浩生館」  
(昭和 38 年～昭和 56 年)

横浜中央厚生宿舎は、昭和 24 年に横浜市より受託経営を開始しました。場所は「南区中村町 3-211」ですので、現在の中央浩生館の住所地になります。そして昭和 38 年に、「宿泊施設 横浜中央厚生宿舎」は廃止され、同じ場所に新たに建設された「宿泊施設 横浜中央浩生館」の受託経営を開始しています。昭和 56 年にこの施設は宿泊施設から生活保護制度上の更生施設に転換し(このときに社会福祉法人化)、現在当法人が運営する更生施設横浜中央浩生館になりました。

「宿泊施設 横浜中央厚生宿舎」については、神奈川県匡済会 75 年史に、下記のような記述があります。

「保護された場所は、横浜駅構内、桜木町、柳橋労働安定所内、野毛、掃部山公園、神奈川公園等が多い。収容保護先は新興倶楽部が当たり、後に清水ヶ丘宿泊所、岡野福祉会館、保土ヶ谷寮、天神寮、中央厚生宿舎に収容されていった。」(社会福祉法人神奈川県匡済会、1994、P35～36)。

ここに記載のある「中央厚生宿舎」のほかに、「保土ヶ谷寮(宿泊施設横浜市保土ヶ谷寮)」も当法人が昭和 29 年～昭和 56 年まで運営していた施設になります。つまり、この時期は、宿所のない労働者などの宿泊先として宿泊施設 2 施設、簡易ホステル 1 施設を運営していたこととなります。そして、昭和 50 年代に入り、宿泊施設の利用率の低下を受けて、横浜中央浩生館は更生施設に転換され、横浜市保土ヶ谷寮は廃止になったということのようです。

## さいごに

私たち編集担当は、この原稿を作るにあたり、横浜市中心浩生館の4階から南区中村町の街並みを眺めてみました。現在空き地になっている市有地には、平成17年まで隣保館「愛泉ホーム」がありました。愛泉ホームの活動が記録されている行政報告には、横浜市中心浩生館のある中村町について、下記のような記載があります。

川沿いにはいくつかのドヤ（簡易宿泊所）が並び、奥へ入ると狭い路地が縦横に延びている。路地に面して小さな家がぎっしりと並んでいるが、庭のある家などは見当たらず、塀のある家でさえ非常にめずらしい。隣との間は隙間もないほどピッタリくっついている。トタン張りの木造住宅が並ぶ中で、所々に新築して間もないと思われる白塗りの現代風な二階屋があるのを見ると、この街もこうやって少しずつ変わっていくのだろうと思う。」（神奈川県政策研究センター：1986）

この記録から35年を経た中村町は、新しい住宅やアパートがかなり多くなって、加えて遠方にランドマークタワーや横浜市新市庁舎が見えており、この当時とは大きく変わってきています（表紙写真参照）。

一方、当法人の法人名は、昭和26年よりかわらず、横浜市社会事業協会です。この原稿を書くまではあまり意識をしたことがありませんでしたが、歴史を振り返ってみると、まさに「社会事業」を行ってきた団体であったことがわかりますし、故に横浜市社会事業協会なんだと思いました。それが時代の変化に合わせて、現在では障害者や高齢者への支援や福祉サービスの提供がメインとなりましたが、過去の実践を踏まえて現在の我々があることを忘れてはならないと思います。

法人本部事務局 辻川彰

## 引用・参考文献

- 社会福祉法人神奈川県匡済会「神奈川県匡済会75年史(1994)」  
 神奈川県政策研究センター「地域教育力の再検討(1986)」  
 南区社会福祉協議会事業部会「みなみの施設福祉事業部会史(1982)」  
 社会福祉法人横浜市社会福祉協議会「横浜の社会福祉—横浜市社会福祉協議会二十五の歩み—(1978)」  
<http://www.pref.kanagawa.jp/documents/22484/776562.pdf>(2021年9月21日閲覧)



よこはまりバーサイド泉 入所ご利用者の作品



よこはまりバーサイド泉 入所ご利用者の作品


# TO THE FUTURE.

法人の歴史 1981-2011




1981

横浜市中心浩生館

 開設当時を知る職員への  
インタビュー (p.8)

1983

よこはまりバーサイド泉

 開設当時を知る職員への  
インタビュー (p.10)

1993

横浜市大岡地域ケアプラザ



(大岡)

2002

グループホームゆい  
横浜市箕沢地域ケアプラザ



(箕沢)

2003

横浜市保土ヶ谷区生活支援センター  
グループホームゆいⅡ



(保土ヶ谷)

2005

グループホームゆいⅢ  
グループホームゆいⅣ

2007

グループホームゆいⅤ

2008

グループホームゆいⅥ

2009

居宅サポート・リバーサイド泉



(居宅)

2010

グループホームゆいⅦ  
グループホームサンライズ

2011

よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨



(光梨)



# TO THE FUTURE.

法人の歴史 2012-2021

2012

グループホームアンダーラ常盤台  
横浜市鶴見区生活支援センター  
グループホームアンダーラ中里台



(鶴見)



2013

就労継続支援 A 型事業所アテイン  
よこはまりバーサイド泉Ⅲのぞみ・ひまわり



(のぞみ・ひまわり)

2015

グループホームサンライズⅡ  
就労継続支援 B 型・移行事業所インカル

2016

グループホームすてら縁



2017

横浜市多機能型拠点こまち



(こまち)



2019

放課後等デイサービスたんぽぽ



(たんぽぽ)

2021

グループホーム Crane 神之木  
就労継続支援 B 型事業所 CaféTurtle



2022 開所予定

就労継続支援 B 型事業所うるおい南  
(横浜市南福祉授産所の運営引継ぎ)



「夢と希望のもてる誰もが住みやすい社会との架け橋」築き続けます



中央浩生館開設当時を知る国分係長へインタビュー



話し手

国分生子 係長

1981~2012 横浜市中央浩生館  
2012~2014 居宅サポート・リバーサイド泉  
2014~2021 よこはまりバーサイド泉  
2021~現在 うるおい南開設準備担当

滝沢杏香 職員

2021~現在 横浜市中央浩生館

聞き手



中央浩生館勤務当時の国分係長

**Q. 中央浩生館が開設された当時、職員はどのような支援を目指していましたか。**

A. 私は栄養士で支援課の職員ではなかったのですが、入院生活が長かった方、ホームレスの経験のある方も入所されていましたので、ご利用者にはまず衣食住の整ったところで規則正しい生活をしていただき、精神障害のご利用者には服薬管理をして症状の安定を図り、更生していただくことを目指していました。はじめはほとんどが精神障害のご利用者で、アルコール依存の方が多かったと記憶しています。

**Q. 中央浩生館と地域のつながりはどのように構築されていきましたか。**

A. 中央浩生館が開所した時、この建物は何になったのだろうと地域の方々は思ったと思います。以前は無料の宿泊施設で酒に酔った人などが

出入りしていましたから、周囲からは良いイメージがないわけですね。地域の方に中央浩生館を知っていただく為に一番初めに考えたのは、まず給食の材料を地域から購入しようということでした。今はもうなくなっていますが、歩いていけるような近くの店で材料を買うことによって、店の人が配達などで出入りするようになるじゃないですか。そうすると「あ、ここにはこういう人たちがいる」と、ご利用者を見かけるようになるわけですね。そうして、ご利用者の生活場面などを見ていただけたのかなと思います。

また、狭い施設なので開放できる場所はなかったのですが、地域との交流の場として考えたのが餅つきです。町内の方たちが集まってくれて、すごく好評でした。最近では高齢化が進みつき手がいなくなってきていますが、今もご利用者、職員、地域が楽しみにしている行事かなって思います。

**Q. 職員はどのようにご利用者の支援を行っていましたか。**

A. ご利用者がどのようにして社会に出ていくのかということが重要だったと思います。一般就労につながる能力のある方たちはいいのですが、そうでない方たちにはやはり作業所関係に行っていただくようなことがありました。今のように障害者雇用のある時代ではないので、なかなか理解を得られないというか、受け入れていただ

けないんですよね。ハローワークで仕事を探せるなど雇用の窓口がオープンでもない時代だったので、就労支援には苦勞されてました。また、就労が継続し落ち着いていけば、生活保護の受給対象ではなくなり、中央浩生館を出なくてはなりません。昔はグループホームもほとんどなかったもので、一般の地域のアパートを借りの方が多かったような気がします。今とは環境が全然違いますので、支援も変わりますよね。



**Q. 国分係長が栄養士として地域とのつながりを感じた場面はありましたか。**

A. 一度だけ栄養指導してほしいと言われ、作業所の方々に栄養の話をした記憶があります。あと、他の更生施設で栄養士がいないところの献立を見てほしいと言われたり。行事にはなるべく参加して、栄養士としてだけではなく福祉という形でもご利用者とかかわりながら、地域とつながることができたかなと思います。100人運動会というのを立ち上げたこともあったんです。とにかく100人集まって運動会をやってみようと、作業所や施設の方を集めて、小学校の校庭を借りた記憶があります。何年も続かなかったような気がするのですが、立ち上げの時に一緒に参加させてもらったことを思い出しました。近くの更


生施設民衆館と合同で運動会を行っていたこともありました。運動会になると、皆さんすごく俊敏に動くんです。カラオケ大会も公会堂を借りて行ったり、色々やっていましたね。ご利用者と職員、地域との交流の場を皆さん楽しんでいました。

**Q. 栄養士として、ご利用者を地域へ送り出す際の支援はどのように行っておりましたか。**

A. 調理実習を行ったりもしていました。ご利用者は機会を作らないと包丁を触ったことがない人も多いので、包丁で果物の皮がむけるように指導したり、ご飯の炊き方も教えました。自炊の練習です。ご利用者を送り出す際、献立が欲しいと言われ、献立を渡したりもしていましたね。

**Q. 長く中央浩生館にお勤めされていましたが今後の展望やこうなってほしいといった思いはありますか。**

A. 今後どういう施設がよいかは分かりませんが、時代に合わせた変化は必要だと思います。近くに別の更生施設がありますが、どこも男性専用なので、女性の入れる施設もニーズがあるかもしれません。入居施設と考えると4人部屋というものも見直しが必要だと思います。新たな中央浩生館になることを期待しています。

リバーサイド泉開設当時を知る朝倉事務長へインタビュー 

話し手

朝倉勝裕 事務長

1984～1996年 よこはまりバーサイド泉  
 1996～2002年 横浜市大岡地域ケアプラザ  
 2002～2005年 横浜市箕沢地域ケアプラザ  
 2006～2014年 よこはまりバーサイド泉  
 2014～2019年 法人本部事務局  
 2019～現在 横浜市多機能型拠点こまち

土屋友香 職員

2017～現在 よこはまりバーサイド泉

聞き手



**Q.リバーサイド泉が開設された頃のことを教えてください。**

A.リバーサイド泉は横浜市で最初の療護施設でした。なので、何をしたら良いのかというのが本当に手探りでしたね。

僕はリバーサイド泉に入ったとき、障害が重度で寝たきり状態のご利用者が、食事と排泄の介助を受けながら過ごしている様子に大変驚きました。「ああ、こういう方々がいるんだ」「この人達のために何ができるのかな」と思いました。

**Q.当時職員としてどのようにご利用者と向き合っていましたか。**

A.色々な障害のあるご利用者がいらしたけど、とにかくその方々の生活をお手伝いするという感覚でした。「一緒に生活するにはどうしたら良いのか」、「気持ちよく生活してもらうにはどうしたら

良いのか」という意識が、僕の中では基本としてあったと思います。「ノーマライゼーション」は「障害を持たない人と同じように」ということですが、何か障害があることによって、一人で外出ができなかったり、友達と気軽に会うことも難しかったりしますよね。「どうやってご利用者の施設外での生活を実現しようか」と考えながら向き合い、時には地域の町内会や他施設と連携して話し合いもしていました。

例えば、暖かい日差しの小春日和に皆で土手に寝転んでみると、意思表示が難しくいつも身体が緊張している人も、だんだん身体の緊張が緩んで表情も柔らかくなっていくんですよ。こういったご利用者の様子を間近で見ると、やりがいや励みにもなりますよね。今のリバーサイド泉はご利用者の障害が重度化していることもあって介助の仕事に追われてしまい、なかなかその人自身に向き合う時間を作ることも難しいのかなと思いますけれど、そういう視点で見ていくと支援員のできることでまだまだいっぱいあるんじゃないかと思います。

**Q.ご利用者がより過ごしやすいようにどのようなことをされたのか、他にもエピソードがあれば教えてください。**

A.些細なことだけれど、壁や手すりの色をペンキで塗り替えて少しずつ明るくしたり、共用部分

に季節ごとの飾り付けをしたりしました。生活の場ですからね、皆自分の家はオシャレに飾ったりしたいでしょう。ご利用者それぞれの居室も好みに合ったものになっているけれど、施設としてある程度制限がありますし、共用部分でも何かできないかなと取り組みました。特に飾り付けはご利用者も皆楽しみにしてくれて嬉しかったですね。



リバーサイド泉勤務当時の朝倉事務長(右)

手足がほとんど動かないご利用者が「絵を描きたい」とおっしゃったときに、色々な挑戦をしたこともよく覚えています。初めはご利用者の指の間に筆を挿して、職員が色を付けて画用紙を動かしていました。当時リバーサイド泉には毎週クラフトの先生が来てくれていたのですが、その様子を見た先生から「これ、なんとかして画板を立てられない?」と言われたことをきっかけに、様々な工夫をしました。まず車椅子に画板を立てかけられるように工夫してみると、ご利用者が自分で体を動かすようになりました。最初は画用紙に筆をポンと置くだけだったのが、5cmくらいの丸を描いて塗れるようになったんです。次に画板が左右に動くようにしてみると、ご利用者が画用紙の横幅全部に色を塗れるようになりましたね。その頃には元々わずかにしか動かなかった手が、肘まで動かせるようになっていました。なので、その肘


で画板を上下にも動かす工夫をして、とうとう画用紙全部に色を塗れるようになりました。そうしたら、そのご利用者は電動車椅子のレバーを肘の動きで動かせるようになったんです。リバーサイド泉の周りを自力で全部回れるようになったときは、ものすごく嬉しかったです。

あとは、電動車椅子を使用している頸椎損傷の方が外出先で排尿に困らないように、色々と試したりしました。その方は一人でも外出できましたが、自力排尿が上手くできず常時集尿器をつけていました。外出して何時間も経つと集尿器から尿が溢れてしまうんです。そのため、ご自身が手で集尿器の蓋を開閉できるように針金とかを材料に手作りしてみました。そこからさらに発展し、横浜のリハビリテーションセンターから協力を得たことで、ボタン一つでパチッと開く電磁弁にする事も出来ました。これによってその方の生活の幅がすごく広がっていききましたね。集尿器の蓋開閉については、リハビリテーション学会で発表もさせてもらいました。これはリバーサイド泉で残してきた僕の自慢でもあります。

こういうように、ご利用者が「やりたい」って心動いたことをお手伝いしたり、生活の幅を広げるために色々工夫してみることが、リバーサイド泉でのやりがいであり、楽しかったことですね。

**Q.長年法人に勤められていますが、現在のやりがいとはどのようなものでしょうか。**

A.元々僕はリバーサイド泉に入職する前、営業職に就いていたんです。当時数字をまとめる仕事が本当に苦手だったんですけど、まわりまわって今はこまちで数字をまとめる仕事をしていますね。だけど、僕の今の仕事も福祉現場での事務仕事であり、法人としての責任でもあるから、これはこれで福祉の仕事だなと思いついて取り組んでいます。

リバーサイド泉開設当時を知る中村施設長へインタビュー 

話し手

中村良隆 施設長  
 1984～2003年 よこはまりバーサイド泉  
 2003～2008年 横浜市中央浩生館  
 2008～2014年 横浜市箕沢地域ケアプラザ  
 2014～現在 よこはまりバーサイド泉

土屋友香 職員  
 2017～現在 よこはまりバーサイド泉

聞き手



**Q. リバーサイド泉が開設された頃のことを教えてください。**

A. 当時は「国際障害者年（1981年）」というのがあり、ノーマライゼーションの考え方がようやく日本に入って来たばかりの時代でした。とにかく「障害を持たない人と同じような生活に」という考え方でしたね。僕らとしても、新しい施設を作ることについて強い思いがありました。障害があるからといって、施設でご利用者に不自由な生活はさせたくないという思いを持っていました。海外ではすでに脱施設化という考え方がありましたが、日本はまだ施設を作るという段階で、10～20年遅れていましたね。

**Q. 当時職員に求められた支援とは、どのようなものだったのでしょうか。**

A. やっぱり人権に対する意識はすごく高かったです。ご利用者の生活を、障害を持たない人達と近づ

けるために、施設の中で何ができるかを常に考えながら支援していました。良い施設を作るために「どういう支援がいいのかな」と考え、色々な事に「トライ&エラーでやっぴこう!」と挑戦していましたね。

**Q. どのようなことに挑戦されたのか、エピソードがあれば教えてください。**

A. 身近なことだと、買い物等でよく外に行っていましたね。車椅子や施設の車で、できるだけ多くのご利用者を連れ出そうとしていました。

あと、当時旅行も行っていました。施設の車と、社会福祉協議会が貸し出していた後ろにリフトが付いている大型バスで、千葉や山梨まで一泊で行きましたね。一度に全員は行けないので、3年1クールで皆が同じ場所に行けるようにしていました。旅行会社に「ホテル利用が可能か」「風呂も利用できるか」など事前に相談して、大広間で夕食を皆一緒に食べたり、大浴場にバスタオルをたくさん持ち込んで入浴したりしました。大変だったけれど、とても楽しかったですよ。やっぱり日常とは違って、ご利用者の表情も変わっていましたね。

**Q. リバーサイド泉と地域のつながりはどのように構築されていきましたか。**

A. 昔は近くの神社で盆踊りがあったので、ご利用者と参加していました。その盆踊りが中止になってしまったため、今度はリバーサイド泉でも開催してみ

ました。施設前庭に櫓（やぐら）を作って、太鼓を持ってきて、地域の方々も呼んで盆踊りをしたんですよ。結局それも数年で中止になってしまったけれど、その後は近くの自治会で開催されるお祭りに参加しました。当時はお祭りの企画段階からリバーサイド泉も入れてもらえてね、その結果自治会ともつながりができて、今でもお付き合いがあります。

あとはリバーサイド祭かな。途中から地域の方々も参加できるようになって、地域に一番関わるメインイベントになりましたね。ただ、施設が日常的に地域の方々とつながる事は難しかったです。やっぱりきっかけがなかなか無いのでね。



**Q.リバーサイド祭はどのようにして地域との関わりを深めたのでしょうか。**

A.リバーサイド泉のすぐ隣には「ぼらいと・えき」という福祉型障害児入所施設があります。当時は「なしの木学園」という名前で横浜市が運営しており、施設のお祭りはリバーサイド泉と別々の日に実施していました。「地域の方々から見ると、なしの木学園とリバーサイド泉は福祉施設として一帯に見えているのではないか」と思い、「一緒にお祭りをやってみないか」となしの木学園に掛け合ったことが、今の形の始まりですね。一体感を出すために両施設の間の道路の使用許可をもらい、たく

さんの人を呼ぼうと色々な事業所に声を掛けました。その時は何百人もの人がお祭りに参加してくれましたね。それによって、泉区や横浜市とのつながりもできました。

**Q.長年法人に勤められていますが、現在のやりがいとはどのようなものでしょうか。**

A.ご利用者が普通に生活できる空間をつくりたいと、強く思っています。それに向けてやるべき事はたくさんあり、どういうふうに変えていくかが今のやりがいです。

例えばご利用者の居室について、本当は一人一部屋の個室にしたいんです。ただ改築にはたくさんのお金がかかるし、改築するとしてもご利用者が住んでいる状況で工事はできないので、なかなか実現が難しいですね。今は一人ひとりの使えるスペースを少しでも広くするために、カーテンなどを工夫するようにしています。納得はしきれませんが、今できることを少しずつ進めています。

**Q.リバーサイド泉開設当時と現在では、ご自身の考えに何か変化はありましたか。**

A.施設長としてではなく個人としての考えですけど、日本の施設におけるケアの仕方は変わる必要があると思っています。施設では「施設だから」という固定概念ができてしまいやすいんですよね。僕はそれを止めたいんです。60 人ご利用者がいらっしゃるとすれば、それは 60 世帯であり、60 人の集合体ではありません。一人ひとりの生活が確立している世帯として考える必要があります。本来ならアパートやマンションのように考えるべきであり、施設然としてはいけません。だから、昔は「良い施設を作ろう」という考えでしたが、今は「施設を無くしたい」と思っています。人間としての尊厳を尊重し、在宅生活のような自由な生活を実現するために、施設の役割はステップアップしていく必要があります。これが今の僕の夢なんです。

## 横浜市中央浩生館 インタビュー後記（滝沢職員）

国分係長のインタビューを担当させて頂きましたが、歴史ある中央浩生館について当時を知っている方から直接お話を聞くことができ、私自身にとって貴重な機会となりました。当時の話を聞いていると、今より障害者への風当たりが厳しい時代背景がある中で、地域や他施設との交流をしたり、食材を地域で購入したり、地域とのつながりについて様々な工夫をしていたのだなと職員の熱意のようなものが感じられました。町内の餅つきは感染症防止の為にすぐにはできませんが、いずれ再開させてみたいです。

また、国分係長が学校卒業後中央浩生館に就職され、初めての職場で、栄養士として一から業務の仕組みを整えていかれたことに大変驚きました。もし私が同じ状況だったら、すぐに弱音を吐いていたかもしれません。

国分係長をはじめ先輩職員方の積み重ねがあって今の中央浩生館があることを思い知ることができました。自分も現状に満足せず、よりよい支援や仕事の在り方を考え続けていきたいです。



## よこはまりバーサイド泉 インタビュー後記（土屋職員）

長年法人に勤められているお二人にインタビューをさせて頂きました。施設開所当時の時代背景等をお聞きして、当時と現在とでの考え方や支援の方向性の違いを知ることが出来ました。まず私が関心を持ったのは、「トライ&エラー」という言葉です。私はご利用者の希望をどう実現していくかを考える時、何か型に当てはめてしまっている部分があると感じました。施設開所当時の「新しい事に挑戦する」、「自由に何でもトライをしよう!」という型にはめない支援は、ご利用者個人としっかり向き合っているように感じました。そのような考え方だからこそ、当時行っていた旅行や現在のりバーサイド祭に繋がっているのだと思いました。

朝倉事務長のお話された内容からは、ご利用者が「普通の生活」を送るにはどうすればよいのかを考えさせられました。普段の支援の中でご利用者の思いを代弁し、応えていこうという姿勢は必要で、私たち職員に出来る事はまだまだあると思いました。

中村施設長が語られた「夢」については、「新しい施設を作る」という動きから「施設を無くしたい」という夢に変わっている事になぜだろうと感じました。しかし、「施設」という狭い空間で仕事をしていると、私の職場が「ご利用者の生活空間」であることが分からなくなっている事に、納得してしまう部分がありました。新卒で入社して排泄介助をしたときには衝撃がありましたが、仕事をしていくにつれて「慣れてしまっている」事に気づきました。私の考える施設の在り方として、まず「普通の生活」というのはどういふものかを今一度考えたいと思います。そして、今後の自分の経験から様々な視点を見出し、少しずつそれを施設に取り入れて、より良い支援ができるよう努力していきたいと思います。







横浜市大岡地域ケアプラザ 月曜サロン参加者の共同作品



よこはまりバーサイド泉Ⅱ光梨 ご利用者の共同作品

## 令和 2 年度事業報告(抜粋)

### 重点目標に対する達成状況

- ① 職員一人ひとりが働きやすい職場環境の構築  
「職場におけるハラスメントの防止に関する規程」の設定、70歳までの継続雇用制度についての検討、短時間正規職員制度の検討を行った。  
※令和3年4月1日より運用開始
- ② 職員採用・定着支援の強化  
オンライン主体の採用活動により、16人の新卒学生の採用に至った。新卒の新採用職員に対しては、定期的な面接及び研修を実施し、きめ細やかな定着支援を行った。
- ③ 健康経営の推進  
よこはまウォーキングポイントに事業所単位で参加し、歩くことによる健康づくりを勧奨した結果、横浜市より取り組みを評価され、共同事業者賞を受賞した。
- ④ 災害対策の強化  
BCPの改定プロジェクトチームを組織し、震災に加えて風水害にも対応したBCP改定作業を進めた。※BCP(Business Continuity Plan/事業継続計画)
- ⑤ 法人内グループホーム間の連携強化  
グループホーム職員を対象とした連絡会を定期的に行き、情報交換や事例検討を行った。
- ⑥ 法人内部での情報アクセス・情報発信の強化  
各施設を通じた情報発信とは別に、全主任職が参加するグループチャットの運用を開始し、職員全体への情報発信を強化した。
- ⑦ IT推進室  
職員情報の一元管理と業務効率化を図る目的で、リニューアルした人事システムの運用を開始した。また、システムへの侵入や不正アクセスの防止などの安全性の強化を行った。

# 令和 2 年度決算書

## 法人単位資金収支計算書

(自) 令和 2 年 4 月 1 日 (至) 令和 3 年 3 月 31 日

(単位: 円)

勘定科目		予算(A)	決算(B)	差異(A)-(B)	
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	252,448,000	232,318,993	20,129,007
		指定管理料収入	415,536,000	365,465,786	50,070,214
		就労支援事業収入	26,467,000	11,722,165	14,744,835
		障害福祉サービス等事業収入	1,736,053,000	1,704,918,486	31,134,514
		生活保護事業収入	16,900,000	16,815,197	84,803
		医療事業収入	68,713,000	55,359,842	13,353,158
		その他の事業収入	780,000	2,072,900	-1,292,900
		経常経費寄附金収入	0	60,000	-60,000
		受取利息配当金収入	2,393,120	1,925,290	467,830
		その他の収入	10,944,000	39,691,885	-28,747,885
	<b>事業活動収入計(1)</b>	<b>2,530,234,120</b>	<b>2,430,350,544</b>	<b>99,883,576</b>	
	支出	人件費支出	1,778,826,000	1,634,237,288	144,588,712
		事業費支出	200,358,000	195,223,512	5,134,488
		事務費支出	369,639,000	355,833,118	13,805,882
就労支援事業支出		25,790,000	25,723,788	66,212	
その他の支出		0	1,008,000	-1,008,000	
支払利息支出		1,026,000	1,032,074	-6,074	
その他の支出		3,141,000	26,938,792	-23,797,792	
流動資産評価損等による資金減少額		0	133,937	-133,937	
<b>事業活動支出計(2)</b>	<b>2,378,780,000</b>	<b>2,240,130,509</b>	<b>138,649,491</b>		
<b>事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)</b>		<b>151,454,120</b>	<b>190,220,035</b>	<b>-38,765,915</b>	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	1,000,000	1,462,000	-462,000
		固定資産売却収入	0	873,092	-873,092
		その他の施設整備等による収入	0	16,702	-16,702
	<b>施設整備等収入計(4)</b>	<b>1,000,000</b>	<b>2,351,794</b>	<b>-1,351,794</b>	
	支出	設備資金借入金元金償還支出	7,520,000	7,520,000	0
		固定資産取得支出	30,810,000	30,235,727	574,273
		固定資産除却・廃棄支出	200,000	0	200,000
		ファイナンス・リース債務の返済支出	38,119,000	36,795,136	1,323,864
		その他の施設整備等による支出	0	9,790	-9,790
		<b>施設整備等支出計(5)</b>	<b>76,649,000</b>	<b>74,560,653</b>	<b>2,088,347</b>
<b>施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)</b>		<b>-75,649,000</b>	<b>-72,208,859</b>	<b>-3,440,141</b>	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	2,095,000	4,731,745	-2,636,745
		拠点区分間長期借入金収入	90,000,000	0	90,000,000
		拠点区分間長期貸付金回収収入	12,000,000	0	12,000,000
		拠点区分間繰入金収入	207,389,000	0	207,389,000
		サービス区分間繰入金収入	55,640,000	0	55,640,000
	<b>その他の活動による収入計(7)</b>	<b>367,124,000</b>	<b>4,731,745</b>	<b>362,392,255</b>	
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	36,804,000	36,804,000	0
		積立資産支出	17,724,000	37,304,803	-19,580,803
		拠点区分間長期貸付金支出	90,000,000	0	90,000,000
		拠点区分間長期借入金返済支出	12,000,000	0	12,000,000
		拠点区分間繰入金支出	207,389,000	0	207,389,000
		サービス区分間繰入金支出	56,363,000	0	56,363,000
		<b>その他の活動支出計(8)</b>	<b>420,280,000</b>	<b>74,108,803</b>	<b>346,171,197</b>
	<b>その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)</b>		<b>-53,156,000</b>	<b>-69,377,058</b>	<b>16,221,058</b>
<b>予備費支出(10)</b>		<b>0</b>	<b>—</b>	<b>0</b>	
<b>当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)</b>		<b>22,649,120</b>	<b>48,634,118</b>	<b>-25,984,998</b>	
<b>前期末支払資金残高(12)</b>		<b>0</b>	<b>780,659,824</b>	<b>-780,659,824</b>	
<b>当期末支払資金残高(11)+(12)</b>		<b>22,649,120</b>	<b>829,293,942</b>	<b>-806,644,822</b>	

法人単位事業活動計算書

(自) 令和 2年 4月 1日 (至) 令和 3年 3月31日

(単位: 円)

勘定科目		当年度決算(A)	前年度決算(B)	増減(A)-(B)	
サービス活動増減の部	収益	介護保険事業収益	232,318,993	241,566,449	-9,247,456
		指定管理料収益	365,465,786	386,801,736	-21,335,950
		就労支援事業収益	11,722,165	10,651,776	1,070,389
		障害福祉サービス等事業収益	1,704,918,486	1,656,749,487	48,168,999
		生活保護事業収益	16,815,197	11,152,710	5,662,487
		医療事業収益	55,359,842	53,836,160	1,523,682
		その他の事業収益	2,072,900	1,571,350	501,550
		経常経費寄附金収益	60,000	104,000	-44,000
		<b>サービス活動収益計(1)</b>	<b>2,388,733,369</b>	<b>2,362,433,668</b>	<b>26,299,701</b>
	費用	人件費	1,647,442,750	1,619,598,492	27,844,258
		事業費	195,223,512	196,322,053	-1,098,541
		事務費	355,833,123	348,553,868	7,279,255
		就労支援事業費用	26,117,357	23,422,704	2,694,653
		減価償却費	123,239,452	111,660,034	11,579,418
国庫補助金等特別積立金取崩額		-33,032,333	-33,822,687	790,354	
徴収不能額		133,937	19,100	114,837	
<b>サービス活動費用計(2)</b>		<b>2,314,957,798</b>	<b>2,265,753,564</b>	<b>49,204,234</b>	
<b>サービス活動増減差額(3)=(1)-(2)</b>		<b>73,775,571</b>	<b>96,680,104</b>	<b>-22,904,533</b>	
サービス活動外増減の部	収益	受取利息配当金収益	1,925,295	1,982,624	-57,329
		その他のサービス活動外収益	39,691,885	15,174,602	24,517,283
		<b>サービス活動外収益計(4)</b>	<b>41,617,180</b>	<b>17,157,226</b>	<b>24,459,954</b>
	費用	支払利息	1,032,074	1,279,287	-247,213
		その他のサービス活動外費用	26,938,792	5,567,176	21,371,616
		<b>サービス活動外費用計(5)</b>	<b>27,970,866</b>	<b>6,846,463</b>	<b>21,124,403</b>
<b>サービス活動外増減差額(6)=(4)-(5)</b>		<b>13,646,314</b>	<b>10,310,763</b>	<b>3,335,551</b>	
<b>経常増減差額(7)=(3)+(6)</b>		<b>87,421,885</b>	<b>106,990,867</b>	<b>-19,568,982</b>	
特別増減の部	収益	施設整備等補助金収益	1,462,000	1,000,000	462,000
		固定資産売却益	536,297	2,148,997	-1,612,700
		<b>特別収益計(8)</b>	<b>1,998,297</b>	<b>3,148,997</b>	<b>-1,150,700</b>
	費用	固定資産売却損・処分損	758,466	6,378,400	-5,619,934
		国庫補助金等特別積立金積立額	4,462,000	1,859,167	2,602,833
<b>特別費用計(9)</b>		<b>5,220,466</b>	<b>8,237,567</b>	<b>-3,017,101</b>	
<b>特別増減差額(10)=(8)-(9)</b>		<b>-3,222,169</b>	<b>-5,088,570</b>	<b>1,866,401</b>	
<b>税引前当期活動増減差額(11)=(7)+(10)</b>		<b>84,199,716</b>	<b>101,902,297</b>	<b>-17,702,581</b>	
法人税、住民税及び事業税(12)		0	0	0	
法人税等調整額(13)		0	0	0	
<b>当期活動増減差額(14)=(11)-(12)-(13)</b>		<b>84,199,716</b>	<b>101,902,297</b>	<b>-17,702,581</b>	
繰越活動増減差額の部	<b>前期繰越活動増減差額(15)</b>		<b>665,939,174</b>	<b>597,626,890</b>	<b>68,312,284</b>
	<b>当期末繰越活動増減差額(16)=(14)+(15)</b>		<b>750,138,890</b>	<b>699,529,187</b>	<b>50,609,703</b>
	基本金取崩額(17)		0	0	0
	その他の積立金取崩額(18)		495,000	0	495,000
	その他の積立金積立額(19)		17,840,013	33,590,013	-15,750,000
	<b>次期繰越活動増減差額(20)=(16)+(17)+(18)-(19)</b>		<b>732,793,877</b>	<b>665,939,174</b>	<b>66,854,703</b>

法人単位貸借対照表  
令和 3年 3月31日現在

(単位：円)

資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
<b>流動資産</b>	<b>921,246,102</b>	<b>852,135,223</b>	<b>69,110,879</b>
現金預金	591,609,421	536,489,665	55,119,756
事業未収金	319,113,113	303,243,052	15,870,061
貯蔵品	2,000	2,000	0
診療・療養費等材料	265,886	659,455	-393,569
立替金	1,919,179	786,061	1,133,118
前払金	8,325,523	7,144,399	1,181,124
前払費用	0	442,640	-442,640
仮払金	10,980	3,367,951	-3,356,971
<b>固定資産</b>	<b>1,598,118,291</b>	<b>1,627,348,636</b>	<b>-29,230,345</b>
基本財産	776,281,728	830,031,456	-53,749,728
建物	676,281,728	730,031,456	-53,749,728
定期預金	831,233	831,233	0
投資有価証券	99,168,767	99,168,767	0
その他の固定資産	821,836,563	797,317,180	24,519,383
建物	11,637,597	7,090,895	4,546,702
構築物	1,225,300	1,421,447	-196,147
機械及び装置	14,788,219	16,801,940	-2,013,721
車輛運搬具	787,388	4,152,953	-3,365,565
器具及び備品	64,820,893	67,515,747	-2,694,854
有形リース資産	75,074,885	65,383,481	9,691,404
権利	8,498,178	8,639,280	-141,102
ソフトウェア	8,570,216	8,342,127	228,089
無形リース資産	13,627,878	21,016,962	-7,389,084
退職給付引当資産	142,702,490	134,170,030	8,532,460
措置施設繰越特定積立資産	33,400,000	80,000,000	-46,600,000
移行時特別積立資産	37,899,221	37,899,221	0
その他の積立資産	0	341,108,832	-341,108,832
介護施設等積立資産	4,867,395	0	4,867,395
施設整備等積立資産	400,186,450	0	400,186,450
その他の固定資産	3,750,453	3,774,265	-23,812
<b>資産の部合計</b>	<b>2,519,364,393</b>	<b>2,479,483,859</b>	<b>39,880,534</b>
負 債 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
<b>流動負債</b>	<b>251,089,651</b>	<b>236,331,443</b>	<b>14,758,208</b>
事業未払金	52,842,940	26,857,339	25,985,601
1年以内返済予定設備資金借入金	5,520,000	5,520,000	0
1年以内返済予定長期運営資金借入金	36,804,000	36,804,000	0
1年以内返済予定リース債務	24,634,377	28,773,916	-4,139,539
1年以内支払予定長期未払金	1,008,000	1,008,000	0
未払費用	9,307,815	12,440,334	-3,132,519
預り金	476,459	316,303	160,156
職員預り金	29,044,440	28,059,294	985,146
仮受金	14,620	3,142,674	-3,128,054
賞与引当金	91,437,000	93,409,583	-1,972,583
<b>固定負債</b>	<b>391,272,936</b>	<b>421,799,993</b>	<b>-30,507,057</b>
設備資金借入金	111,580,000	119,100,000	-7,520,000
長期運営資金借入金	70,749,000	107,553,000	-36,804,000
リース債務	63,439,446	57,096,963	6,342,483
退職給付引当金	142,702,490	134,170,030	8,532,460
長期未払金	2,352,000	3,360,000	-1,008,000
長期預り金	450,000	500,000	-50,000
<b>負債の部合計</b>	<b>642,362,587</b>	<b>658,111,436</b>	<b>-15,748,849</b>
純 資 産 の 部			
	当年度末	前年度末	増 減
<b>基本金</b>	<b>194,327,380</b>	<b>194,327,380</b>	<b>0</b>
基本金	194,327,380	194,327,380	0
<b>国庫補助金等特別積立金</b>	<b>473,527,483</b>	<b>502,097,816</b>	<b>-28,570,333</b>
国庫補助金等特別積立金	473,527,483	502,097,816	-28,570,333
<b>その他の積立金</b>	<b>476,353,066</b>	<b>459,008,053</b>	<b>17,345,013</b>
その他の積立金	0	391,108,832	-391,108,832
移行時特別積立金	37,899,221	37,899,221	0
人件費積立金	33,400,000	30,000,000	3,400,000
介護施設等積立金	4,867,395	0	4,867,395
施設整備等積立金	400,186,450	0	400,186,450
<b>次期繰越活動増減差額</b>	<b>732,793,877</b>	<b>665,939,174</b>	<b>66,854,703</b>
次期繰越活動増減差額	732,793,877	665,939,174	66,854,703
(うち当期活動増減差額)	84,199,716	101,902,297	-17,702,581
<b>純資産の部合計</b>	<b>1,877,001,806</b>	<b>1,821,372,423</b>	<b>55,629,383</b>
<b>負債及び純資産の部合計</b>	<b>2,519,364,393</b>	<b>2,479,483,859</b>	<b>39,880,534</b>

# 令和 3 年度事業計画(抜粋)

基本方針
令和 3 年度は、法人新 10 年プランの 2 年目になる。新 10 年プランで示されている 4 つの柱「安全、安心して快適なサービスの提供」「地域への貢献、福祉ニーズへの対応」「経営の安定とサービスの向上」「人材の育成、働きやすい職場づくり」に即して、必要な対応を行う。
重点目標
① 職員一人ひとりが働きやすい職場環境の構築 ② 法人本部の機能強化 ③ 職員採用・定着支援の強化 ④ 健康経営の推進 ⑤ 法人内部での情報アクセス・情報発信の強化 ⑥ 行動指針・倫理綱領の見直し ⑦ 勤怠管理システムの導入
目標達成のための対応策
① 職員一人ひとりが働きやすい職場環境の構築 夏季休暇の新設、リフレッシュ休暇制度の新設を検討する。 ② 本部事務局の機能強化 事業所で分散実施している経理事務を集約する。令和 3 年度は、横浜市大岡地域ケアプラザ、横浜市箕沢地域ケアプラザの経理事務を本部事務局に移管する。 ③ 職員採用・定着支援の強化 新卒の新採用職員に対するきめ細やかな定着支援を行うとともに、インターンシップの開催機会を増やし、内容の見直しを行う。 ④ 健康経営の推進 健康づくりの勧奨、心の健康づくりについて職員のサポートを行う。また、職員の健康課題に即した取り組みを行い、横浜市健康経営認証 AAA の取得を目指す。 ⑤ 法人内部での情報アクセス・情報発信の強化 諸手続きの方法など法人内部での情報アクセスを強化する。 ⑥ 行動指針・倫理綱領の見直し 平成 21 年度に策定した行動指針・倫理綱領の見直しを行う。 ⑦ 勤怠管理システムの導入 時間外勤務、年次有給休暇取得状況を見える化し、適切な働き方を担保するため、法人統一の勤怠管理システムの導入を検討する。

# 令和3年度資金収支予算書

## 資金収支当初予算

令和3年4月1日

(単位：円)

勘定科目		前年度予算額	当初予算額	増減	
事業活動による収支	収入	介護保険事業収入	252,448,000	250,604,000	-1,844,000
		指定管理料収入	415,536,000	411,462,000	-4,074,000
		就労支援事業収入	26,467,000	29,462,000	2,995,000
		障害福祉サービス等事業収入	1,733,172,000	1,804,135,000	70,963,000
		生活保護事業収入	16,900,000	16,900,000	0
		医療事業収入	68,713,000	70,161,000	1,448,000
		その他の事業収入	780,000	1,100,000	320,000
		受取利息配当金収入	2,393,120	2,294,120	-99,000
		その他の収入	10,944,000	14,047,000	3,103,000
	<b>事業活動収入計(1)</b>	<b>2,527,353,120</b>	<b>2,600,165,120</b>	<b>72,812,000</b>	
	支出	人件費支出	1,778,826,000	1,824,820,000	45,994,000
		事業費支出	199,608,000	205,534,000	5,926,000
		事務費支出	366,543,000	369,905,000	3,362,000
		就労支援事業支出	25,790,000	28,800,000	3,010,000
その他の支出		0	294,000	294,000	
支払利息支出		1,026,000	733,000	-293,000	
その他の支出		3,141,000	4,910,000	1,769,000	
<b>事業活動支出計(2)</b>	<b>2,374,934,000</b>	<b>2,434,996,000</b>	<b>60,062,000</b>		
<b>事業活動資金収支差額(3)=(1)-(2)</b>		<b>152,419,120</b>	<b>165,169,120</b>	<b>12,750,000</b>	
施設整備等による収支	収入	施設整備等補助金収入	1,000,000	1,000,000	0
		<b>施設整備等収入計(4)</b>	<b>1,000,000</b>	<b>1,000,000</b>	<b>0</b>
	支出	設備資金借入金元金償還支出	7,520,000	7,520,000	0
		固定資産取得支出	30,430,000	27,816,000	-2,614,000
		固定資産除却・廃棄支出	200,000	300,000	100,000
		ファイナンス・リース債務の返済支出	38,119,000	37,996,000	-123,000
<b>施設整備等支出計(5)</b>	<b>76,269,000</b>	<b>73,632,000</b>	<b>-2,637,000</b>		
<b>施設整備等資金収支差額(6)=(4)-(5)</b>		<b>-75,269,000</b>	<b>-72,632,000</b>	<b>2,637,000</b>	
その他の活動による収支	収入	積立資産取崩収入	1,600,000	320,000	-1,280,000
		拠点区分間長期借入金収入	78,000,000	37,000,000	-41,000,000
		事業区分間繰入金収入	0	3,756,000	3,756,000
		拠点区分間繰入金収入	207,389,000	231,445,000	24,056,000
		サービス区分間繰入金収入	50,640,000	19,005,000	-31,635,000
		<b>その他の活動による収入計(7)</b>	<b>337,629,000</b>	<b>291,526,000</b>	<b>-46,103,000</b>
	支出	長期運営資金借入金元金償還支出	36,804,000	36,804,000	0
		積立資産支出	17,724,000	17,559,000	-165,000
		拠点区分間長期貸付金支出	78,000,000	37,000,000	-41,000,000
		事業区分間繰入金支出	0	3,756,000	3,756,000
		拠点区分間繰入金支出	207,389,000	231,445,000	24,056,000
サービス区分間繰入金支出	51,363,000	19,005,000	-32,358,000		
<b>その他の活動支出計(8)</b>	<b>391,280,000</b>	<b>345,569,000</b>	<b>-45,711,000</b>		
<b>その他の活動資金収支差額(9)=(7)-(8)</b>		<b>-53,651,000</b>	<b>-54,043,000</b>	<b>-392,000</b>	
<b>予備費支出(10)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>当期資金収支差額合計(11)=(3)+(6)+(9)-(10)</b>		<b>23,499,120</b>	<b>38,494,120</b>	<b>14,995,000</b>	
<b>前期末支払資金残高(12)</b>		<b>0</b>	<b>0</b>	<b>0</b>	
<b>当期末支払資金残高(11)+(12)</b>		<b>23,499,120</b>	<b>38,494,120</b>	<b>14,995,000</b>	

## シンフォニー第 25 号 法人設立40 周年記念号

令和 4 年 2 月発行

---

社会福祉法人 横浜市社会事業協会  
横浜市泉区中田東 3-15-2 中田町センタービル 202  
印刷／就労継続支援 A 型事業 アテイン

---